

備前市事務事業評価表

事業の概要		コード	04-01-02-03
事務事業名	森林普及振興事業		
	根拠法令・要綱等	森林病虫害等防除法	
事業開始年度	昭和46年度以前		
大項目	もてなしの心とたくましさのあるまちづくり	問合せ先	農林水産課
中項目	豊かな食を支えるまちづくり	職・氏名	管理係長・大道健一
小項目	施策	電話	64-1831

事業の実施	
対象 (誰・何に対して)	森林所有者、森林利用者、地域住民
目的 (何のために)	森林の保全培養と森林生産の増進を図り、もって国土の保全と市民の安全に資することを目的とする。生活環境保全林整備及び分収造林の維持管理。
行政活動 (どのような方法で)	地域と連携を取り事業実施。
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	生活環境保全林の整備と管理及び松くい虫の駆除を行うことによる松林の保護。

事業の実績				
実施項目	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
松くい虫駆除事業量	m ²	80	80	102
松くい虫駆除本数	本	557	345	550
森林管理巡視委託	件	1	1	1
生活環境保全林管理委託	ha	44	44	44
健康保安林管理委託	ha	8	8	8
活動実績				
事業費	直接事業費	3,923	6,594	5,098
	人件費	千円 830	2,139	3,596
財源	事業費計	4,753	8,733	8,694
	国県支出金	748	1038	249
受 益 者 負 担 債 権	市 一般財源	千円 4,005	7,695	8,445
	必要人員	人 0.10	0.30	0.40
結果指標名				
結果指標	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
松くい虫駆除事業量	説明	伐倒駆除量		
結果指標量	m ²	80	80	102
対前年比	%	-	100.0%	127.5%
活動コスト	円	1,653,000	1,102,500	550,000
単位当たりコスト	円	20,663	13,781	5,392
結果指標	説明	伐倒駆除による駆除本数		
結果指標量	本	345		
対前年比	%	150.7%		
活動コスト	円	1,102,500		
単位当たりコスト	円	3,195		

事業の成果			
成果指標名	松食い虫被害木の除去	式又は説明	駆除量 / 事業費
成果指標量	17年度 80.00	18年度 80.00	19年度 102
対前年比		100.0%	127.50%
到達目標値	80	到達目標年度	毎年度

事業の目的、対象、内容を考えてながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成19年度事業)	
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 開法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令)	妥当性評価<A-E>	C
	<input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である	課題認識	
対象	<input checked="" type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている	保全すべき松林を定め、松くい虫駆除を行っていく必要がある。	
	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化している		
行政活動	<input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある	効率性評価<A-E>	
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない		
事業の意図する成果	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない	課題認識	
	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請の強い事業である	早期に駆除し、被害の削減の努力をしている。	
市の関与	<input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である	有効性評価<A-E>	
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい		
コスト	<input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である	課題認識	
	<input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい	5-6年前に比べると、松くい虫の被害は減少し、目標は達成されつつある。	
効率性の評価	<input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい	早期に駆除し、被害の削減の努力をしている。	
	<input type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを低減することは困難		
手 段	<input type="checkbox"/> 受益者負担額を見直す余地がある	有効性評価<A-E>	
	<input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない		
職 場	<input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善に努めている	課題認識	
	<input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	5-6年前に比べると、松くい虫の被害は減少し、目標は達成されつつある。	
目的達成度	<input type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている	有効性評価<A-E>	
	<input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている		
成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい	課題認識	
	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである	5-6年前に比べると、松くい虫の被害は減少し、目標は達成されつつある。	
市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	有効性評価<A-E>	
	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである		
市民参画度	<input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	課題認識	
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している	5-6年前に比べると、松くい虫の被害は減少し、目標は達成されつつある。	
市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している	有効性評価<A-E>	
	<input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している		
市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	課題認識	
	<input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	5-6年前に比べると、松くい虫の被害は減少し、目標は達成されつつある。	

平成20年度の状況		説明	風倒木の原因となる被害木を除去することにより、山林を保護することが出来る。
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している		結果指標量
<input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している	目標値	
<input type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了	結果指標量	m ² 及び本数
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している		成果指標量	

総合評価		評価区分 <A-E>	C
松くい虫被害は一時沈静化していたが、拡大の傾向が見られるため、継続していく必要がある。			

平成21年度以降の方向性		<input type="checkbox"/> 平成20年度で廃止・完了
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する	
<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する	
<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する	
<input type="checkbox"/> 見直しを要する	<input type="checkbox"/> 他との統合を検討する	

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果